

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた

授業のデザイン

新学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが示されています。本紙は、改訂の趣旨を踏まえた授業の例などを示しています。各学校において、自校の年間指導計画や生徒の実態等を踏まえ、確かな学力を身に付けさせる授業をデザイン（構想）するための参考資料として御活用ください。



中学校・音楽



音楽科の目標及び学習指導要領改訂のポイント

1 音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 学習指導要領改訂のポイント

◇内容構成の改善

表現領域（「歌唱」「器楽」「創作」）、鑑賞領域及び〔共通事項〕で構成する。

◇歌唱共通教材の提示

◇我が国の伝統的な歌唱の充実

◇和楽器を取り扱う趣旨の明確化

◇創作の指導内容の焦点化・明確化

◇鑑賞領域の改善

◇〔共通事項〕の新設

事例と関連のある本県の重点とする目標

－「指導の指針」より 栃木県教育委員会－

○感性を働かせて感じ取ったことを基に、思考・判断し表現する一連の過程を大切にした指導方法の工夫改善

○我が国や郷土の伝統音楽に関する指導

○音楽活動の基礎的な能力の育成

○言語活動の在り方

○コミュニケーションを図る指導の充実

○指導と評価の一体化

【参考文献】

・「中学校学習指導要領解説 音楽編」 文部科学省 平成20年9月

・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 音楽】」 国立教育政策研究所 平成23年11月

・「指導の指針」 栃木県教育委員会 平成25年3月

◇本リーフレットは栃木県総合教育センターホームページ(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>)から、ダウンロードできます。

◇問い合わせ先 栃木県総合教育センター研究調査部 TEL028-665-7204

キーワード

伝統的な歌唱の表現活動

曲種に応じた発声

歌唱表現と鑑賞

能「羽衣」の謡を取り上げ、歌唱表現では西洋音楽とは異なる発声法を学び、微妙な音程が固有の味わいを生み出すことを感じ取った上で、どのように謡いたいかを考えさせる事例です。

指導のねらい

謡の特徴を理解して場面にふさわしい表現方法を工夫し、どのように謡うかについて思いや意図をもつことができるようにする。

<学習指導要領との関連>

【第3学年】 A表現(1)イ B鑑賞(1)ア イ 【共通事項】 ア 音色 旋律 強弱

授業の例

題材名「謡の歌唱や鑑賞を通して、能のよさや美しさを味わおう」(第3学年)

2 / 3 時間

学習活動と予想される反応	指導上の留意点と言葉かけ
1 謡(フシ)の基本的な謡い方を復習する。 2 本時のねらいを知る。 謡にふさわしい声や場面に応じた音楽表現を工夫し、「羽衣」の最後の部分をどのように謡うかについて考えよう。 3 CDを聴いて、謡にふさわしい発声、声の抑揚などを考えながらグループごとに謡う。 『その名も月の〜』からは抑揚を付けて言葉の意味が分かるように歌う。(十五夜の空、月のように美しい色をした天女) 4 「かすかになりて〜」の部分について、どのように謡いたいかを考え、思いや意図をもつ。 「物語のしめくくりを厳かな感じで。だんだんゆっくり、消えるように謡う。」 「最後の言葉は十分な長さを保って、切ない感じに謡う。」 『間』を十分とって、掛け声も工夫してみる。」 5 表現の工夫を共有する。 ・自分の歌唱表現の思いや意図について発表する。 ・友達の意見について、自分の思いと照らし合わせながら聴く。 6 謡にふさわしい声や場面に合った表現を工夫し、考えたことや話し合ったことを踏まえて謡う。	『東遊びの数々に〜』の繰り返しの部分を模範演奏を聴きながら復習しましょう。」 ・伝統的な歌唱にふさわしい雰囲気づくりをするために、姿勢を正し一礼してから復習を始めるよう促す。 「模範演奏を参考に、おおまかに音の高低を付けてみんなで謡ってみましょう。」 「どのように表現してみたいのか、みんなの思いを伝え合いましょう。」 ・範唱を聴いて、感じたことを確認し、自分たちで実際口ずさみながら表現の工夫をさせる。 ・感じたことや、自分の思いを下図のように書かせることでイメージを膨らませる。 天女が高く上った感じを出すため強調 空の高さ、広さを表すために声を伸ばす ・図示できない生徒には助言し、一緒に書くなどして支援をする。 「個人でどのように謡うのかを考えてもらいました。ここでその思いや理由を発表しましょう。」 ・自己評価シートに記入させ、思いを交流させる。 「最後にみんなで謡の特徴を生かして謡ってみましょう。」

評価に当たって

○知覚・感受しながら、「羽衣」の物語の内容にふさわしい表現を工夫し、どのように謡うかについて思いや意図をもっているかをワークシートの記述や練習の様子から評価します。

留意点及び工夫点

- 歌唱表現において知覚・感受したことを基に、次時では、楽器との合わせ方にも着目させ、能の歴史や総合芸術などの理解を含めて、伝統音楽のよさについて主体的に味わって聴かせます。
- カンゾーネなどの歌唱を取り扱い、西洋音楽と伝統音楽の違いを比較することで、音楽の多様性を理解して鑑賞する能力を高めることができます。
- 伝統や文化に関する教育の視点から、国語科(古典)や社会科(各時代の文化)など他教科と関連して指導することも考えられます。

キーワード

創作 音色 リズム 旋律 平調子 構成 和楽器(箏)

音楽を形づくっている音色、旋律、速度などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、箏の特徴を生かして表現したいイメージをもたせる事例です。

指導のねらい

桜に関する様々な情景をイメージし、それにふさわしいモチーフを各自が即興的につくる。反復したり、友達と組み合わせたり、重ねたりすることによって、「さくらさくら」の前奏、後奏をつくれるようにする。

<学習指導要領との関連>

【第1学年】A表現(3)イ [共通事項] ア 音色 リズム 旋律 構成

授業の例

題材名 「さくらの情景を箏で奏でよう」(第1学年) 2/3時間

本時は前時に練習した「さくらさくら」が、ほぼ弾けるようになっていていることを想定しています。

学習活動と予想される反応	指導上の留意点と言葉かけ
1 「さくらさくら」の旋律を演奏する。 2 本時のねらいを知る。 桜の情景をイメージして、「さくらさくら」の演奏の前後に続く旋律をつくろう。 3 情景を決めて各自でモチーフをつくる。 ・桜のつぼみが出始めた頃 ・満開の頃 ・お花見をしている人々の様子 ・風にゆれる花びら ・散ってゆく桜 ・桜のじゅうたん 4 ペアやグループで、音楽を構成する。 「私のモチーフにAさんのモチーフを重ねてみよう。」 「このリズムはだんだん速くしてみよう。」 「トレモロにするとイメージにぴったりだ。」 「反復させて、強弱で印象付けたい。」 5 代表グループが発表し、聴き合う。 ・どのようなところが優れていたか、感想を話し合うことで、互いの作品のよさや改善点に気付く。 6 本時の学習を振り返る。	・演奏の順番を待っているときには、弦の番号で歌うように促す。 『さくらさくら』にオリジナルの前奏か後奏をつくりましょう。 ・平調子の音を使って、自分のイメージする情景に合わせて奏法や音色、速度を考えるように促す。 ・ワークシートに曲のイメージを記入させることで、表現したい思いや意図を表出させる。 ・机間指導により、同じような情景を考えている生徒を把握して、グループを決めておく。 ・友達と話し合ってイメージを共有させる。 ・つまづいている場合には、重ね方やつなぎ方の例を教師が示す。 「友達の作品を聴いて、どのように感じましたか。感じた理由も書きましょう。」 ・次時は、順番を決め全体で通してオリジナルの「さくらさくら」を演奏することを伝える。

〔作品の例〕



桜が一つ、二つ、ポツンポツンと咲く様子を表現したいな。指ではじいてみよう。

花が咲くときの、生命のエネルギーを表現したいな。



4回繰り返して演奏してみよう。

私は2回目から入るね。ゆっくり始めてだんだん速くしてみようよ。

評価に当たって

- 本時では、箏の特徴を生かし、どのように自分のイメージと結び付けていくかについて、試行錯誤しながらモチーフをつくり、友達とイメージを共有して組み合わせている過程から評価します。
- 音楽表現への創意工夫の観点から、リズムや音を選んだ理由を言葉で表現できることが大切です。創作の活動における評価には演奏の技能は含めません。つくった音楽を演奏できることが望ましいのですが、難しい場合は教師が演奏することも考えられます。

留意点及び工夫点

- 即興的に試行錯誤しながらつくっていくため、記録は五線に限らず弦の名前を書かせるなど、生徒の負担にならないように工夫して提示します。

キーワード

鑑賞 曲の構成 音色 リズム テクスチャ 旋律

オーケストラによる多彩な音色や旋律、一貫したリズム、テクスチャなどの要素の働きや構成と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わう事例です。

指導のねらい

「ボレロ」の音色、旋律、リズム、テクスチャなどの要素の働きと曲想との関わりに関心をもち、主体的に取り組めるようにする。

<学習指導要領との関連>

【第2学年】B鑑賞（1）ア 【共通事項】ア 音色 リズム 旋律 テクスチャ 構成



授業の例

題材名「オーケストラの響きを味わおう」（第2学年）1／2時間

学習活動と予想される反応	指導上の留意点と言葉かけ
1 リズム活動をする。 2 本時のねらいを知る。 楽曲を聴いて、楽器の音色やリズム、旋律について特徴を感じ取ろう。 3 「ボレロ」の一部分を聴き、どのような感じの音楽なのかを、短い文に表す。 4 着目する要素を絞って聴き、ワークシートに書く。 ① 楽器の音色や響き…どのような音？ ② リズムのパターン…どんな刻み方？ ③ 旋律の動き…どんな動き方をしているか？ 5 気付いたことを発表し合う。 「旋律は大きく二つ。大体交互に出てくる感じ。」 「教会をイメージするような楽器の音もあった。」 「同じリズムがずっと刻まれている。」 6 「ボレロ」を通して聴く。 7 本時の学習を振り返る。	・三つの班に分け、簡易なリズムアンサンブルをさせる。 「第一印象をメモしてみましょう。」 ・音楽の流れ、楽器の音色・響き、リズムパターン、旋律の動きなど、メモする項目を挙げておく。 ・自分なりに考えさせたり、グループで話し合ったりさせる。 「ここからは、三つのことに着目してもっと深くこの曲の魅力を探っていきましょう。」 ・感じ取ったことを表現することが苦手な生徒に対しては、着目する要素を限定したりヒントカードを使用したりして支援する。 ・主な旋律を歌わせたり、リズム打ちをさせたりする。また、発言で出た中から、印象的な部分を再び聴かせて共有させる。 ・話し合ったことを意識しながら、聴き味わうように促す。

〔リズム活動例〕2回繰り返して1セット

〔リズム構成の例〕



Cは手拍子。

A、Bは、音の出し方を変えて、音色を工夫しよう。

A			○		○	○	○	リズムの終わりの
B		○		○		○	○	
C	○	○	○	○	○	○	○	

評価に当たって

○鑑賞時の様子や発言やつぶやき、ワークシートの記述等から、音楽への関心・意欲・態度について評価します。
 二つの主題に気付いた生徒がいたら全体に広めて、部分的に聴かせて確かめさせます。

留意点及び工夫点

- 導入では、「ボレロ」の楽曲の構成との関連を意識して、繰り返しているリズムに、音色を変えたリズムを加える活動を取り入れています。導入の活動は、主教材や中心活動等と関連付けると、ねらいを達成させるのに効果的です。
- 音楽を形づくっている要素を感じ取らせるためには、何度か繰り返して聴かせることが大切です。着目させる要素については、生徒の実態に応じて増減します。
- 次時では、旋律の受け渡しや重なりなどに着目して聴かせてから全体を鑑賞させ、批評文を書かせることが考えられます。感じ取ったことに加えてその理由について、本題材で学習した音色、旋律、リズム、テクスチャ、構成（反復）のうちから、複数の言葉を用いて書けるように指導します。